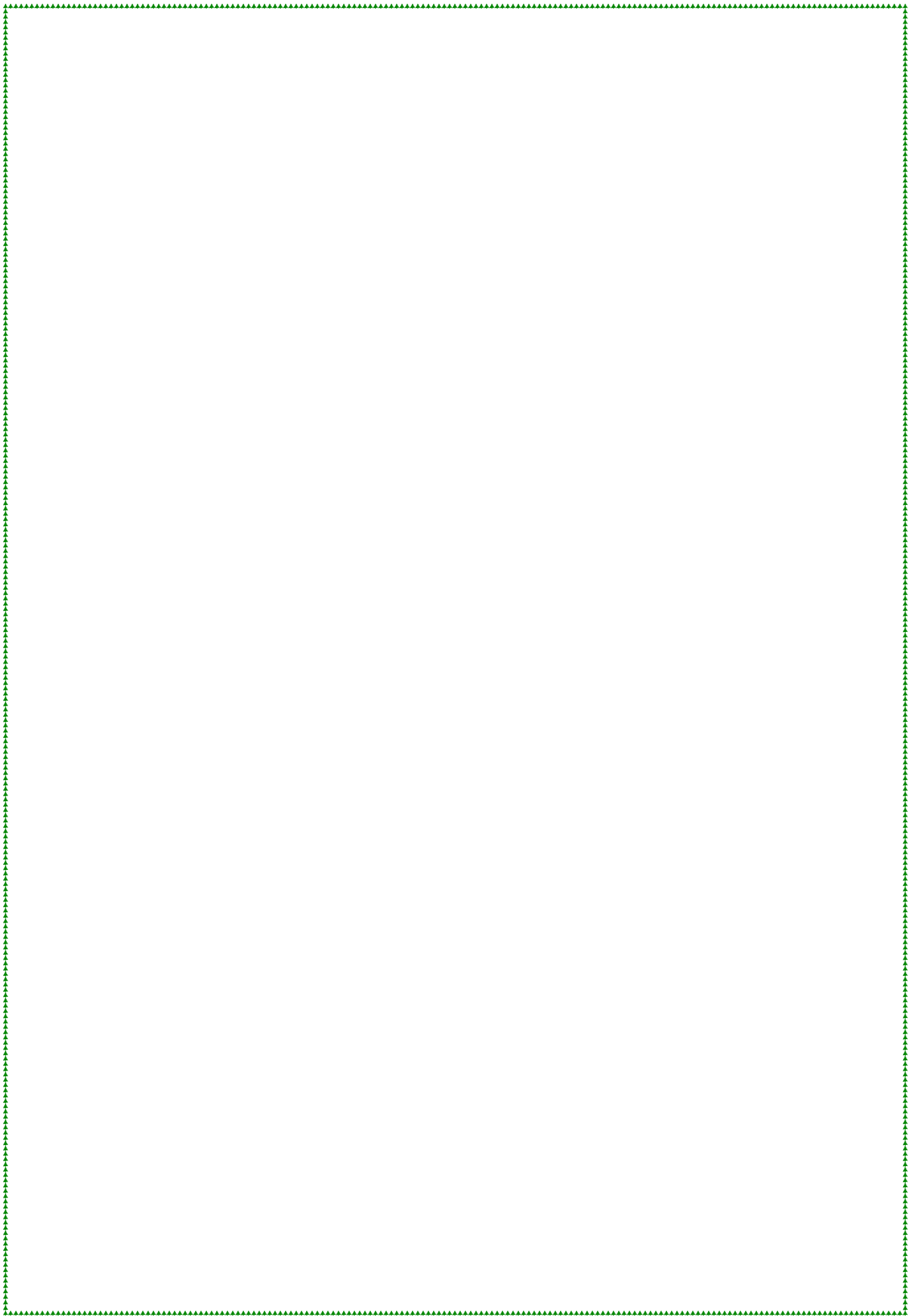


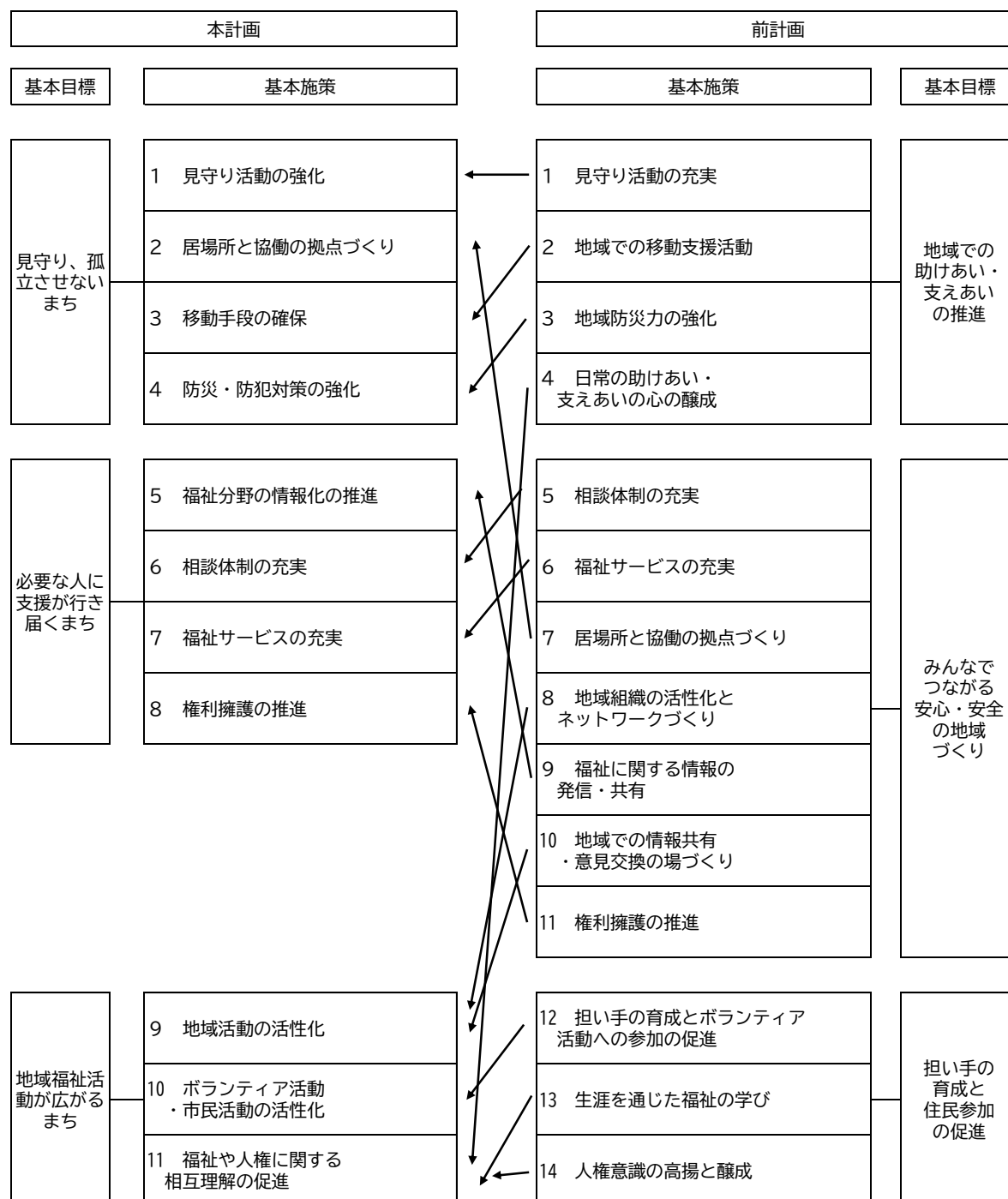
参考資料



参考資料Ⅰ 施策体系の前計画からの変更点

本計画では、前計画の施策体系や施策項目名をおおむね踏襲しつつ、ワークショップで出された意見を集約した計画課題等を踏まえ、14本の基本施策を11本に厳選し、3つの基本目標に沿って、順番の組み換えを行いました。

施策体系の前計画からの変更点



参考資料2 ワークショップでの意見整理の内容

令和6年10～11月に実施したワークショップでは、「この2000日 これからの2000日」をテーマに、地域に起こった良い変化、良くない変化を振り返り、住み続けたい地域を作っていくために、今後5年間、何をすべきかを話し合いました。タイムテーブルは以下の通りで、時間はそれぞれの会場で多少前後しました。

ワークショップのタイムテーブル

項目	時間
1 自由討議	13時40分～55分
2 画用紙記入（地区のこの2000日）	13時55分～14時10分
3 読み上げ・貼りこみ	14時10分～25分
4 再討議	14時25分～35分
5 「追い紙」記入（これからの2000日）	14時35分～50分
6 読み上げ・貼りこみ・発表準備	14時50分～15時
7 発表・全体意見交換	15時～15時15分

各地区での班ごとの「全体発表」の要旨と、模造紙での整理内容を次ページ以降に掲載します。

五條地区のワークショップのようす



大塔地区のワークショップのようす



(1) 五條地区

五條地区Ⅰ班

〔全体発表の要旨〕

Ⅰ班は、「若い世代等の住民の流出」や「一人暮らし高齢者の増加」といった現状を中心に、発表を行いました。農家の減少と耕作放棄地の増加といった課題も採り上げ、人口増加に向けて、SNSで五條の良いところ、おいしいものをアピールするなど、市民にも市外の方にも五條の良さを伝えていくのはいかがでしょうかと提起しました。

〔模造紙での整理内容〕

この2000日	これからの2000日
<良かった点> ・高速道路ができ、奈良方面、大阪方面にも短時間で行けるようになった ・給食費（学校）が無償になった <悪かった点> ・お米を作る人が少なくなりました ・こどもが少なくなった ・地域の運動会がなくなり、子ども会も長く続いていたものがなくなりました ・独居の方が増えてきている ・高齢世帯は、親族（息子、娘）が、五條市から出て生活していることが見受けられる ・自治会員の高齢化。活動がなくなってきた ・空き巣が増えてきている ・新しい店ができない ・市役所の移転で、まちなか通行が減った ・コロナ禍以降、家族葬が増え、亡くなった人の情報が少なくなった ・コロナをきっかけに行事がなくなった	・畑や田んぼを無償で貸し出す ・移住のすすめ（空き地、農地） ・高齢者と同居する世帯への援助 ・若者世代の移住を促すため、生活面での援助を進める ・観光の振興（新町、栄山寺） ・人口が増えるよう、素晴らしいホールがほしい ・人の集まれる音響のよい建物がほしい ・各地域のイベント行事を増やし、地域の輪を深める ・交通機関の充実 ・車ではなく、自転車に頼る生活 ・交通の便を良くする <人口増加を目的に若者を取り込む> ・YouTube（SNS）で市長がアピールする ・五條の良いもの、おいしいものを宣伝する。五條の人が知ることが大事 ・五條に防災拠点がほしい

五條地区 2 班

〔全体発表の要旨〕

2 班は、これまで、行政計画は、会議等で施策の検討はされるが、実行力が乏しいことが多かったことを話題として採り上げました。「これからの 2000 日」では、各論として交通対策の充実にふれるとともに、新しい物事に挑戦する五條市の実行力、リーダーシップへの期待が強調されました。

〔模造紙での整理内容〕

この 2000 日	これからの 2000 日
<地域の環境について> ・ 高速道路ができた ・ 飛行場整備の計画がなくなった ・ コロナ禍から、最近ようやく、社会的な制限が緩和された ・ 高齢化。人口減少。働き手の減少。食い止める速度を遅くするにはどうすればよいか ・ 新町通りは寂しい。活気はどうして消えつつあるのか ・ 「ハラスメント」が社会問題となっているが、細かく分類すると 17 種もあり、複雑 ・ その人個人を考えるのではなく、周囲の環境までも見るべき <施策推進について> ・ リーダーシップが求められる（結果の出る実行力） ・ 五條市にも兵庫県のような実行力のある知事（市長）さんがおられるように願います ・ 話し合いや会議は頻繁に行っていると思う。結果→実行は？という点に疑問がある	<交通> ・ 交通の便を良くする ・ シダーアリーナ（総合体育館）の利用に関わらず、交通の便を考えていただけないだろうか ・ 車に乗れない人、老人等も利用できるような乗り物を <新しい活動、場> ・ 老人会、婦人会の活動の中に、学生たちも含んだ楽しい活動もやってみたいと思います。元気な笑い声に、思わずつられて、楽しめると思います ・ 新しいこと（物事、SNS、テナント）にチャレンジ、実行

五條地区 3 班

〔全体発表の要旨〕

3 班では、地域の防犯と防災を中心に話し合いを行いました。関東地方で頻発する強盗事件への不安について、会議の参加者である警察官の方に意見を求め、警察官の方は「とにかく抵抗はしないで救助を待ってほしい」と答えられました。「これからの 2000 日」では、啓発活動や見回り活動の強化が重要と総括しました。

〔模造紙での整理内容〕

この 2000 日	これからの 2000 日
・ 高齢者の一人住まいが増えた ・ 一人暮らしの方の防犯面に対しての不安や心配への対策 ・ 一人暮らしで病気になって動けなくなったら、救急車を呼べたらいいけど、できない場合もある。家にベルか何かをつけられたらいいと思う ・ 現在、関東の方で起こっている「闇バイト問題」は、関西でもいつ起こるかわからない。「闇バイト」は強盗であり、金銭だけでなく、生命まで奪われる危険性がある。できる限り、「横への連帯」を取り入れ、起こらないようにしてほしい	・ 高齢者世帯への見回りを多く実施する。防犯、防災についての啓発活動を多く行う ・ 一人暮らし宅への見回りを増やす →ただし消防団員の減少等が問題である ・ 地区の自治会は、高齢者が多いため、火事になったら、救出が先で、消火まで手が回らないです ・ 福祉施設や集合住宅でも、防犯対策等の話し合いを実施 ・ 警察の方が出席しておられるので、警察の方からの現在の「闇バイト」についての意見を聞きたい

五條地区のワークショップのようす



五條地区 4 班

〔全体発表の要旨〕

4 班では、この 2000 日、一人暮らし高齢者が増え、これからの 2000 日はイベント等の地域活動でつながりを作っていきたいと発表されました。自治会やスポーツ協会といった地域の活動についての意見が多く出されました。スポーツ協会の活動を評価する意見や、子どもだんじりが継承されている地域があり、どう後世につないでいくかといった話題も出ました。

〔模造紙での整理内容〕

この 2000 日	これからの 2000 日
<地域の変化> ・一人暮らしが増えた ・一人暮らしの人が増えた ・少子高齢化が進んだ ・一人暮らしが多く、家族支援も必要になった ・高齢化と一人住まい。コロナで人生悪化 ・1 人の生活が好き、嫌い、どちらが多いのか ・高齢化に伴い、一人暮らしの家庭が増加している。 ・介護保険の相談が増えた ・耳の遠い人が増えたので、大きな声が聞こえる ・一人暮らしの方がお亡くなりになっている現場に立ち会った ・買い物に困っている人がいる（足が悪い） ・こどもを見ることがなくなった（スクールバス等で） <地域活動の状況> ・体育協会（スポーツ協会）の活動が活発である（平成元年から現在まで） 百歳体操、グランドゴルフ、歩こう会、店だし ・地域によっては体育協会（スポーツ協会）があり、今も活動的に動いている ・地域の行事が少なくなっている中、一部の地域では活発に行われている（目立たないボランティアが大切）	<地域活動を活発に> ・自治会への加入を勧めてほしい（市や窓口で） ・自治会のメリットを強調するのはダメ（参加するのが当たり前） ・イベントが少なくなった ・地域のつながりができるよう、イベントづくり ・住みよいまちだけど、住みにくいまち ・こどもだんじり、どうつなぐ？ <事件がないように> ・老人の注意、心得の周知を

(2) 五條西地区

五條西地区Ⅰ班

〔全体発表の要旨〕

Ⅰ班は、公園や移動手段といった身近な生活の話題が多く挙げられました。五條中央公園を活性化の拠点と位置づけたり、バスの自由乗降等による利便性の向上を望む声も複数あがりました。また、マイナンバーカードの活用の仕方に戸惑っている、という意見も出されました。

〔模造紙での整理内容〕

この2000日	これからの2000日
<地域> ・近くに住んでいる方の近況がわからない(お元気でいらっしゃるのか、亡くなったのか等) ・こどもが少ない。声をかけられなくて寂しい ・友愛チームで訪問すると、本人だけでなく家族の方まで喜んでくださるのがうれしい <犯罪> ・匿名流動型犯罪は、今後、深刻な問題になっていくかもしれません。情報提供をお願いします ・特殊詐欺に充分に気をつけてください。犯人は様々な方法で近寄ってきます <移動> ・足の不自由な人がバス停まで歩いて行くのが、大変と言われる。どうすればよいのか、何か手立ては <困りごと> ・マイナンバーカードの扱い方	<活性化・交流> ・JR五条駅から五條中央公園まで歩道の整備 ・五條中央公園のふわふわドームは人気があり、橋本から保育園の遠足等に利用されている。もっと活性化できるのでは ・五條においしい食べ物屋さんが増えてほしいです(大月さん、浅野屋さんまた開店してもらえませんか) ・各集いのつながりの機会づくり ・地域住民の交流機会が増えてほしい。(泥んこバレー、駅伝、地車(だんじり)等) ・伝統行事の復活 ・男女の区別をなくすのも一つの方法では <移動> ・移動手段の検討(バスの頻度や小型化等) ・公共交通が安全で便利に使えたらいいのにな ・バス停だけでなく、手をあげたら自由に乗れるように。路線上は自由に降りることができるように ・決められた停留所以外でも、昇降できるといいな

五條西地区のワークショップのようす



五條西地区 2 班

〔全体発表の要旨〕

2 班は、「つながり、交流」「移動」「お金」の 3 つのテーマに沿って取りまとめを行いました。「こども食堂の大人版」、「住民同士の移動支援」、「使えるけどいらない家具や家電の譲り合い」など、住民自身が行う取組への提案も複数出されました。

〔模造紙での整理内容〕

この 2000 日	これからの 2000 日
<つながり、交流> ・コロナの影響で人間関係が希薄になった ・コロナの流行で、人が集う場所や機会がなくなった。コロナが落ち着いた今でも、交流の場は復活していない ・コロナ感染予防で、地域の活動（ボランティア、行事等）がストップした 悪い点：そのまま活動停止したこと 良い点：改めて人とのつながりの大切さに気づかされたこと ・民生委員になって、高齢者のことを考える機会が多くなった ・ご近所の様子が伝わってこない <移動> ・運転に自信がなくなり、改めて交通手段が充実していないことに気づかされた ・コミュニティバスの本数が少ない（病院に行くため、早朝等） <お金> ・物価高で生活が大変 ・賃金は上がらないが、物価がとて高くなった ・悪い点として、コロナ感染対策で経済活動が止まり、生活困窮者が増えた（コロナ貸付利用は 234 世帯） ・良い点としては、ギリギリのラインで生活している世帯の把握。困窮者が社会福祉協議会に相談しやすくなった（貸付利用者）	<つながり、交流> ・交流の場を作ってほしい ・市などの行事を増やしてほしい ・「こども食堂の大人版」のような集まる場所があれば、一人暮らしの高齢者が助かると思う ・こどもが楽しめる、地域での行事、住民同士の出会いの場が増えたらいいな（お祭り、地藏盆もなくなったり、簡略化されたり等） <移動> ・住民同士の移動支援、助けあい活動を作る（ゴミ出し） ・徒歩で用事が済ませることができ、宅配サービス、移動支援のしくみ ・車がなくても便利に暮らせるようになってほしい（店、駅等） <お金> ・経済的に苦しい人を助けられる（助けあえる）資源があったらいいな（小中学校の制服を譲り合うとか、使えるけどいらない家具や家電の譲り合い等） ・お金に困らない暮らしができるように。生活に困っている人への支援（現物支給や、フリーマーケット）

(3) 五條東地区

五條東地区Ⅰ班

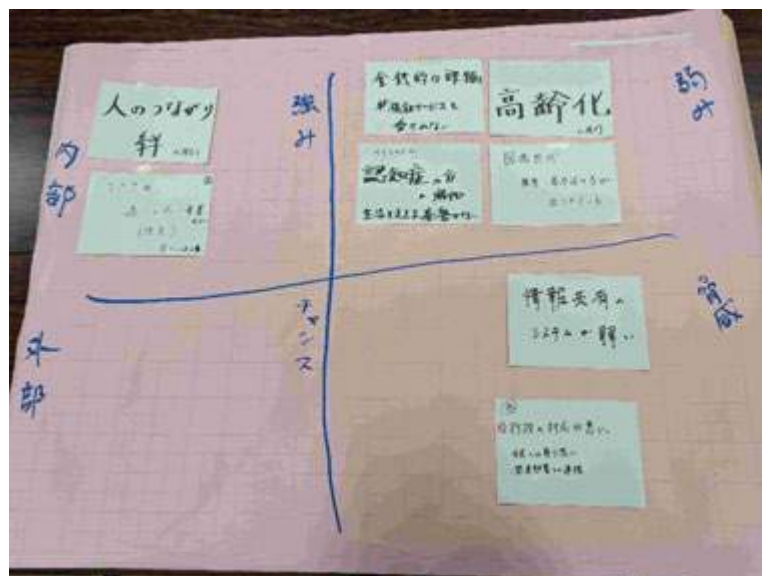
〔全体発表の要旨〕

Ⅰ班は、地域のケアについて、強み・弱み、機会・脅威を座標軸上で「SWOT分析」の手法で整理しました。弱み・脅威として、住民サービスの不十分さや情報共有のしくみの弱さを指摘した上で、今後は、きめ細かな相談対応と、行政内部や多機関連携を進めるべき、と提案し、そのためには相談機関の専門人材の充実が重要と総括しました。

〔模造紙での整理内容〕

この2000日	これからの2000日
<強み・機会> ・人のつながり 絆の深まり ・コロナ後、通いの場・事業等に住民が戻りつつある <弱み> ・高齢化の進行 ・ケアされていない認知症の方の増加 ・団塊世代で障がい・要介護の方が出てきている ・生活を支える基盤がない ・金銭的な課題で福祉サービスを受けられない <脅威> ・情報共有のシステムが弱い ・行政の対応が悪い 市民への寄り添い、関連部署との連携が重要	<頑張れ行政アンド地域> ・地域のつながり、連携をとれる環境づくり（行政だけでなく、もっと小規模で相談できるように…） ・地域包括支援センター 人材、マンパワー充実してほしい（エキスパート） ・地域ケア会議の意見がどのように反映されたのか報告がほしい

「SWOT分析」で取りまとめた模造紙



五條東地区 2 班

〔全体発表の要旨〕

2 班は、この 2000 日に、コロナ禍の影響等で地域コミュニティのあり方が激変してきた中で、これからの 2000 日に、どういう夢や希望を持っていくかという話し合いを行いました。上野公園にこども向けの遊び場をといた意見や、企業誘致、公共交通の利便性の向上等の意見があがっていました。

〔模造紙での整理内容〕

この 2000 日	これからの 2000 日
<地域のつながり> ・ 地域の方々のコミュニケーションが少なくなった ・ コロナの影響で行事が減り、参加する人が減少している ・ コロナで地域の関わりが減った ・ 地域のまとまりが低下してきた ・ 自治会を脱退する方が増えた ・ 防災訓練にも地域で取り組んで行けるよう、横のつながりを持っていきたい <こども> ・ こどもが減ってきた。活気がなくなってきた ・ 小学校の統合でつながりが低下している ・ こどもの遊ぶ場所がない。減ってきた ・ 農免道路の自転車通学は危ない ・ 通学のマイクロバスを、皆、平等にしてほしい ・ 地域行事の参加できる環境。例えば、秋祭りのこどもの参加。中学生も参加できるように <高齢者> ・ 高齢者が増加してきた（65 歳以上 40%）。一人世帯、二人以上世帯が増加してきた ・ 高齢者世帯や一人暮らしの方が多くなった ・ 老人憩いの家が閉鎖になった。食事、カラオケ、会合等の関わりがなくなった ・ 介護や障がい。いろんな問題を抱えて複雑になっている ・ 認知症の方が増えてきた ・ 8050 問題 ・ 介護する方の支援が必要	<交通> ・ 交通の便を図る（高齢者増加しているため免許返納の方増加している） ・ バスやタクシー等の交通を便利にする <雇用> ・ 若い人が働けるよう、五條市に企業に来てもらう ・ 高齢者を雇用していくという方向が大事 <環境> ・ 上野公園にこどもが遊べる広場がない（ボールけり禁止等）。トランポリンがあればいい ・ 吉野川の上手に桜を植えてほしい。憩いの場を作してほしい <収入> ・ 年金や収入が増えるとよい ・ 物価高騰がなくなるとよい <人口> ・ 人口が増えるとよい ・ こどもが増えるとよい <災害> ・ 災害時要支援者の個別対応が求められる

五條東地区 3 班

〔全体発表の要旨〕

3 班は、空き家、空き店舗の増加、北宇智小学校の閉鎖など、地区の現状を整理した後、今後の五條市についていくつかの提案を行う形で発表しました。五條北インターチェンジ周辺の活性化や、テクノパーク・ならの活用、大学の誘致、五條出身の著名人との連携など、様々なアイデアが出されました。

〔模造紙での整理内容〕

この 2000 日	これからの 2000 日
・ こどもを見かけなくなった。残念！ 日本の将来が心配 ・ こどもが減って、北宇智小学校が閉鎖された ・ 近所の高齢の方がお亡くなりになって、空き家が増えた ・ 空き家、空き店舗が多い ・ 独居の高齢者が増えている ・ 自治会の維持が困難 ・ ますます高齢化していく ・ 農地が放置されている ・ 防災、防犯の目が行き届かなくなっている ・ 次々に新しい手口の犯罪が発生して、地域住民の方々に周知してもらうのが難しい ・ 地区の祭礼諸行事がある ・ 祭りがあると人が集まる ・ 外国人が増えてきた	・ 東京一極集中を地方分散化する ・ こどもを産めるよう、手立てをしっかりとる ・ 出身者である巨人の 4 番バッター岡本和真に関する観光地にできないか ・ コストコ等の話題の施設があるとうれしい ・ 農地改革。「地域一帯農業」 ・ 大和大学の五條キャンパスを作ってほしい ・ 五條北インターチェンジ周辺の活性化 ・ テクノパーク・ならを活かす（外国人に対する補助、テクノパークと自治会との交流）

五條東地区のワークショップのようす



(4) 野原地区

野原地区Ⅰ班

〔全体発表の要旨〕

Ⅰ班の発表では、コロナ禍により地域活動に多くの影響があった一方で、地域活動の大切さを改めて感じたと現状を総括し、今後取り組むべき内容として、地域のつながりを強化したい、居場所づくりを進めたい、共助による生活支援ができないか検討したいといった項目があがりました。

〔模造紙での整理内容〕

この 2000 日	これからの 2000 日
<コロナの影響> ・コロナで地域の活動が（ボランティア、見守り等）止まってしまった →高齢化で消えたり休んだり活動が止まった団体もあった →ボランティア活動や見守り活動、地域での行事の大切さに改めて気づいた ・ご近所とのつながりに変化があった。コロナで接し方が遠のいたが、その反面、最近はつながりが強くなってきた。助けあい、協力の意識が変化した ・コロナの問題があり、高齢者の皆さんとの接し方に配慮が必要となった（高齢者だけでなく、全体的に） ・新型コロナウイルスでイベント・交流が減少 ・コロナ感染防止のため、家に閉じこもりがちになり、そのフォローに配慮した。体力面、精神面での対応 ・コロナで経済的困窮者が増えた。社協で 234 世帯に貸付を行った。外国人、日雇い、高齢者（年金生活）、ひとり親など、ギリギリの生活をされている方がいることがわかった。今この時点で苦しんでいる方もおられる ・コロナの流行により、人と人とのつながりが少なくなった ・コロナで人々の交流が希薄になった ・コロナ以降、イベントが復活してきている（吉野川まつり等） <地域環境の変化> ・人口減少、高齢化	<つながりづくり> ・住み慣れた地域で暮らせるように地域のつながり ・老人と若い人との交流を深めるようなイベントの開催 ・小さな地域の中でつながりを増やし、深めていくことで助けあえる地域づくり ・元気な高齢者と共に、こどもたちが畑を耕したり、作物を育てたりすることができ、また、障がいのある方たちも一緒に活動できる何かができればいいなど。時間はかかりますが… ・農業、ものづくり、長寿 ・高齢者を一人にさせないための地域でのイベント、見守りの実施 ・一人暮らしの老人も外に出て活動でき、生きる楽しさを味わえるようなことができればいいな ・地域を回り、高齢者とお話をする中で、いろいろな悩みや不安を聞くことができる。民生委員としてその話をうかがうことから、不安を解消するための手立てとして、どこの関係機関につなげることがベストなのかを、よくわかるようなシステムが構築されるといいと思う <居場所づくり> ・こども、高齢者が一緒にできる交流の場 ・昔から蓄えてきた知恵をこどもに伝えていくことで活躍の場づくり ・空き家を利用したイベントや移住に力を

・高齢者世帯や独居世帯が増えた ・どの業界でも人手不足が急速に進んだ（海外の人も参入） ・犯罪被害、特に詐欺被害にあう人が増えた ・こどもの人数は減っているが交流できる機会は増えた ・一人暮らしの方への配慮について、地域団体はどこまで踏み込めばよいのか。行政とのかねあい等わかりやすく！ ・地域住民と各機関との連携について、あまり深くなかったのでは？ ・交通（バス、タクシー等）の充実。細かい場所まで行けてない	注ぎ、地域を活性化する ・空き家の活用、カフェ等 <共助による生活支援> ・経済的困窮者に対しての支援策（資源づくり）を創る（行政、福祉法人、企業、地域住民さんと考えられたらなあ） ・困りごとに必ずあがる移動の問題、解決策を考えたい。全国的に住民さんでつくる移動支援が広がっている ・免許証を返納した高齢者への交通の対策として、一般の方々がタクシーのようなシステムで運営することができれば病院通いとか買い物への対応ができるのではないと思われる（理想ですが） ・役所、ボランティア、住民の連携 ・行政職員、専門職、民生委員さんとの横のつながりを強化する！ 研修、事例検討、ケース会議等 ・弱みを強みに変えていくために地域で話し合い、活かせるようにする
---	---

野原地区のワークショップのようす



野原地区 2 班

〔全体発表の要旨〕

2 班は、この 5 年間の振り返りとして、コロナ禍による生活への影響、能登半島地震発生による災害への危機感の増大、新知事による防災拠点の方針変更など、今後の取組として、五新鉄道用地の活用、地区内の公共施設の有効活用、築堤工事の早期実施促進等をあげました。

〔模造紙での整理内容〕

この 2000 日	これからの 2000 日
・五新鉄道の再利用 健康維持のためウォーキング、観光 ・国道 168 号の両側の活動の活性化 竜安寺、丹原の農業構造改善センターの活用 公民館の利用 ・新金剛トンネルをつくる会 今後の課題についての検討 ・バスの利用の活性化 ・1 月 1 日に能登半島地震が発生した。南海トラフ地震や災害に対する意識、整備を考えて行かないといけない ・通信手段の多様化で、多くの関係機関と連携（カンファレンスの開催等）できるようになった ・コロナで退院先の施設受け入れや面会に制限がかかった。地域の関係性が希薄化した ・知事がかわったことで、防災拠点の方針が変わった ・知事の報告について メガソーラーを造るとテレビ議会で報告されたが、視察にも来ず、防災拠点を太陽光発電所にするなんておかしい。阪合部の住民はあっけにとられた。メガソーラーは反対	・五新鉄道用地の再利用 今は通行不能→道路開放。エリアを区切って草刈り ・公民館の活性化 団体を募集する。近接する農業構造改善センターの活用のために、デマンドタクシーを ・災害対策への取組 行政、施設、病院、地域で考えていく 高齢者、障がい者、児童含め ハザードマップを確認していく ・公共交通機関の充実 JR→バス（デマンドバス、タクシー）・徒歩 交通手段が限られる ・地域の活性化 町おこし、イベント 食事や遊ぶところなど、魅力のあるまちづくりを目指す ・国交省に対して 今年、築堤工事が進んでいるが、早くせねば大きな台風が来ると築堤が氾濫するので、早くしていただきたい ・なつみ台について 自治会が発足されてない。もし災害が起これば、誰が先頭になって避難誘導するのか疑問です。役を持つのがいやですと皆が問題を先送りしている

〔全体発表の要旨〕

3 班の発表では、この 2000 日、コロナ禍で残念なことが多かったが、地域のために頑張っている人のことを知った、こどもは地域を元気にする力があると再認識した、といった気づきを紹介し、今後、居場所づくりやイベント等を進め、お互いを助けあえる地域づくりができたらいと結びました。

〔模造紙での整理内容〕

この 2000 日	これからの 2000 日
<良かったこと> ・地域の可能性に気づくことができた ・コロナが明けて、改めて人との交流の大切さを感じることができた ・地域にはたくさん頑張っている人たちがいることを知ることができた ・こどもたちには地域やお年寄りを元気にする力があることを知った ・コロナが落ち着いてきてデイサービスや百歳体操など、目的を持って出かける高齢者が増え、少しずつ明るく元気をとりもどしてきたように思う ・地域の祭りが復活でき、良かった <残念だったこと> ・コロナ中にいろいろなイベントが中止になり、残念だった ・こどもが出て行き、淋しくなった ・地域にいる高齢者と出会う機会もあまりなく、こどもたちも少なくなり、村の行事がこれからどうなっていくのか少し心配である ・知り合いの方が多く亡くなった ・コロナの影響もあり、お年寄りに対してできないことが多く、そのまま亡くなってしまった方もいた ・コロナのことがあり、高齢者が楽しみにしていた地域の“敬老会”も中止となり、久しぶりに友達と会えるチャンスもなく、家でひっそりとした生活を毎日過ごす高齢者が増えた ・コロナの影響もあり、福祉施設の中でできる活動の限界を感じた	<居場所づくり> ・地域に多くの人が集まれるような場所ができれば良い ・様々な方が集える場所づくりがしたい世代を超えて教え合える場所 ・五條には“こんな楽しい所があるよ”と言える高齢者もこどもたちも若者も活動できる場があるといいな <イベント> ・吉野川を活かしたスポーツイベントをメンバーと一緒に企画 ・地域のことをよく知って好きになってもらいたい。健康になるためのイベントがあれば良い <地域づくり> ・若者が増え、こどもたちも増える。今以上の五條の長所がもっと発見できるといいです ・年を取ったらこんな生活がしたいと言える地域をつくりたい ・互助、互いが助けあえる地域づくり、互いのことを知る

(5) 西吉野地区

西吉野地区Ⅰ班

〔全体発表の要旨〕

Ⅰ班では、地域の過疎化の現状を受け、これからの2000日の取組として、地区ごとの百歳体操を引き続き継続するとともに、新しくなった西吉野農業高校を盛り上げることや、YouTube「五條市チャンネル」の活用、国道168号の社会的役割のアピールを進めること等の案が出されました。

〔模造紙での整理内容〕

この2000日	これからの2000日
<良かった点> ・地区ごとに百歳体操を行っており、健康増進と地域の輪になっている ・県からの補助金によって、花を植える地域美化運動ができた（補助金は令和6年度で打ち切りの予定） <悪くなった点> ・幼稚園、小学校、中学校の廃校 ・人口流出と高齢化が進んでいる ・コロナ禍をきっかけに、行事が減少している ・道路環境が悪化し、改善されない ・空き家の増加や田畑の放棄が目立つ ・無断で動画撮影等をしながら勝手に空き家に立ち入ったり、物色するような旅行者をたびたび見かける ・介護士の賃金が低い	・百歳体操は現在地区ごとに集まっているが、自宅からも参加できるよう、YouTube「五條市広報チャンネル」で百歳体操を放送するのはどうか ・市民への情報発信として、YouTube「五條市広報チャンネル」を活用する ・西吉野農業高校を盛り上げ、活用し、生徒数を増やす ・数十年前に実施していた、海外からのホームステイ留学受け入れの復活 ・国内の山村留学受け入れ ・自衛隊の誘致 ・新金剛トンネルの必要性を具体化するために、新宮港への好アクセス、ロケット発射基地のある串本への好アクセスをアピールするのはどうか ・昨今、世界的に需要が求められる「核シェルター」の用地確保は都会では難しいため、立候補してはどうか

西吉野地区のワークショップのようす



〔全体発表の要旨〕

2 班は、人口減少や少子高齢化、耕作放棄地の増加といった現状を受け、これからの 2000 日には、住民同士で交流できる機会づくりや、路線バスを降りてからの地域内での移動手段の確保、地域資源である梅のさらなる活用、空き家の活用、高齢者支援の充実等を進めるべき、という提案が出されました。

〔模造紙での整理内容〕

この 2000 日	これからの 2000 日
<良い点> ・自治会活動を通して地域の方の役に立っていると思うと、うれしい ・一人暮らしの方に声かけをし、返ってくる笑顔がうれしい ・令和 6 年 8 月 5 日よりコミュニティバスが運行されるようになった ・西吉野農業高校ができ、バスの運行時間が使いやすくなった <悪くなった点> ・学校が統合され、地域のふれあい行事も減少し、こどもの姿を見る機会が減った ・秋祭り等の地域の行事がなくなり、住民同士のコミュニティが減った ・自治会の存続が厳しくなっていており、議員数を減らして対応している ・コロナ禍から冠婚葬祭の行事が様変わりした。葬儀は家族葬が増え、お祭りは神事のみ ・高齢化による人口減少が著しい。こどもがおらず、空き家が増えてきた ・村にこどもが一人もいない。一番若い方は 65 歳で、高齢化が進んでいく ・5 年後、10 年後を思うと、考えたくない気持ちになる ・白タクが可能なら住民の移動手段に役立つかと考えるが、バスに乗る人が減ってしまうかもしれない、どちらがいいのか悩ましい ・耕作放棄地が増え、有害鳥獣の被害が数多くみられる ・消防団の活動が少なくなってきた。線状降水帯の影響で消防小屋がなくなり、集まる場所もない	<集いの場> ・全地区でのいきいき百歳体操の復活 ・自転車こぎができるマシン等があれば、運動しやすい ・娯楽用具等を購入し、公民館で共に楽しんで遊ぶ ・茶話会の開催 ・住民同士がお互いに話し合える場の提供や公民館等の活用 <生活> ・地域で住み続けるためには車がなければ生活できないため、自宅まで送迎してくれる交通手段の充実を考えてほしい <活性化> ・賀名生梅林をもっときれいに！ ・梅干し販売を増やせないか ・耕作放棄地や空き家問題の対策として、行政による居住者を募集するなど考えてほしい ・村の空き家等を活用し、転入者を募る。少子化対策としても有効 <介護、一人暮らし> ・24 時間対応の介護サービスの充実 ・一人暮らしの高齢者の訪問活動

(6) 大塔地区

大塔地区Ⅰ班

〔全体発表の要旨〕

Ⅰ班は、この2000日に、ふれあい交流館が閉鎖されたこと、以前は手渡しだった広報誌が郵送になった、移動販売が拡充されたこと等を振り返り、これからの2000日には、長く住み続けられる地域にしていこうと、今ある地域内での顔のわかるつながりという強みをこれからも残しつつ、Uターンの促進等で活性化を図るのがよいと発表しました。

〔模造紙での整理内容〕

この2000日	これからの2000日
・人口減 ・高齢化が進み、人口が減っている ・人がいない集落ができてきた ・百寿会（老人会）がなくなった ・コロナの影響で人のつながりが減った ・集まる機会が減った（コロナの影響） ・ふれあい交流館が閉まってしまった ・令和4年3月にふれあい交流館が閉館 ・広報配達がなくなって皆さんに会えなくて残念 ・移動販売が便利になった ・ならコープが移動販売を開始 ・買い物ツアーを2か月1回 ・配食サービスがなくなった、もともとない	・大塔の強み 全員の顔がわかる ・高齢の人が長く住み続けられるしくみ 村ならではのイベント、お店 サロン等の強化 ・人を増やす →60歳以上のリタイア組のUターン

大塔地区のワークショップのようす



大塔地区 2 班

〔全体発表の要旨〕

2 班は、大塔地区では、働く場所がないためや、身体機能の低下により日常生活が送れないため人口減少が進んでいるが、買い物支援が行き届き、何とか暮らしているのが現状であると報告しました。「希望的観測」として、河原を開放して利用料をいただくことで雇用につなげたり、空き家を活用したカフェ等が提案されました。

〔模造紙での整理内容〕

この 2000 日	これからの 2000 日
<人口減少> ・人口減少 高齢化 ・高齢化が進み 集いに出にくい ・高齢・過疎化 ・認知症や施設入居による転居増えた ・一人暮らし ・こどもの姿が見られない - 少子化 活気なし 若者なし <地域の強み> ・地域の強み 共助の確立 自給自足 ・地域の強み 顔見知り、たすけあい、共助 ・買い物支援で（コープや吉野ストア）食品が確保できている <地域の弱み> ・地域の弱み 環境、気象による災害 ・地域の弱み 交通に弱い 道路（通行止め） ・施設の閉鎖 ・学校や駐在所の統廃合が進んだ ・働く場所がなくなり、若者、こども世代がいなくなった ・バスの運行本数減 移動困難	・観光 ・河川開放、有料化 ・食 ・カフェ（空き家の活用） ・退職世代の趣味の場所づくり ・雇用先増 ・働く施設を造る ・移住支援 ・デイサービス施設の利用者が増えるといいな ・道 - バイパスとなる道の増設、整備 ・交通

参考資料３ 五條市地域福祉計画策定委員会要綱

令和元年５月２７日
告示第５５号

（設置）

第１条 五條市が社会福祉法（昭和２６年法律第４５号）第１０７条に基づく五條市地域福祉計画、同法第１０９条に基づく社会福祉協議会が定める地域福祉活動計画及び成年後見制度の利用の促進に関する法律（平成２８年法律第２９号）第１４条第１項に基づく成年後見制度利用促進計画（以下これらを総称して「五條市地域福祉計画」という。）を一体的に策定するにあたり、その策定及び進行管理を行うため、五條市地域福祉計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条 策定委員会の所掌事務は、次に掲げる事項とする。

- （１）五條市地域福祉計画の策定に関すること
- （２）五條市地域福祉計画の進行管理に関すること
- （３）五條市地域福祉計画の策定及び進行管理に関してその他必要な事項

（組織）

第３条 策定委員会は、委員２０人以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- （１）学識経験のある者
- （２）市民関係団体
- （３）福祉及び医療関係者
- （４）警察及び消防関係者
- （５）関係行政機関の職員
- （６）その他市長が必要と認める者

（委員長及び副委員長）

第４条 策定委員会に委員長及び副委員長各１人を置く。

- ２ 委員長及び副委員長は、委員の互選により選任する。
- ３ 委員長は委員会を代表し、会務を総括する。
- ４ 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（任期）

第５条 委員の任期は５年とする。ただし委員が欠けた場合における補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

- ２ 委員は、再任することができる。

（会議）

第６条 策定委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

- ２ 策定委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- ３ 策定委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは委員長の決する

ところによる。

- 4 策定委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、その意見又は説明を求める事ができる。

(庶務)

第7条 策定委員会の庶務は、社会福祉課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営に関し、必要な事項は委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

附 則

この要綱は、令和6年4月1日から施行する。

参考資料 4 五條市地域福祉計画策定委員会委員名簿

		役職名	氏 名	備 考
1	議会	五條市議会議長	福塚 実	R6.12.26 まで
2		五條市議会議長	岩本 孝	R6.12.27 から
3		厚生建設常任委員会委員長	山口 耕司	R6.12.26 まで
4		厚生建設常任委員会委員長	吉田 正	R6.12.27 から
5	福祉関係者	五條市社会福祉協議会会長	清水 勝	委員長
6		五條市民生児童委員連合会会長	棕本 敏雄	
7	市民関係団体	五條市自治連合会会長	丸山 泰登美	
8		五條市老人クラブ連合会会長	幸田 檣嗣	
9		五條市介護保険事業所協議会会長	安川 武志	副委員長
10		五條市小学校長会副会長	延原 喜久子	
11		五條市手をつなぐ育成会会長	大谷 國代	
12	医療	五條市医師会会長	岩井 務	
13	警察・消防	五條警察署長	平川 章	
14	学識経験者	生活支援コーディネーター	福西 由起子	
15	行政	五條市教育委員会事務局教育部長	名迫 雅浩	
16		五條市あんしん福祉部長	谷口 久美	

参考資料5 計画策定の経過

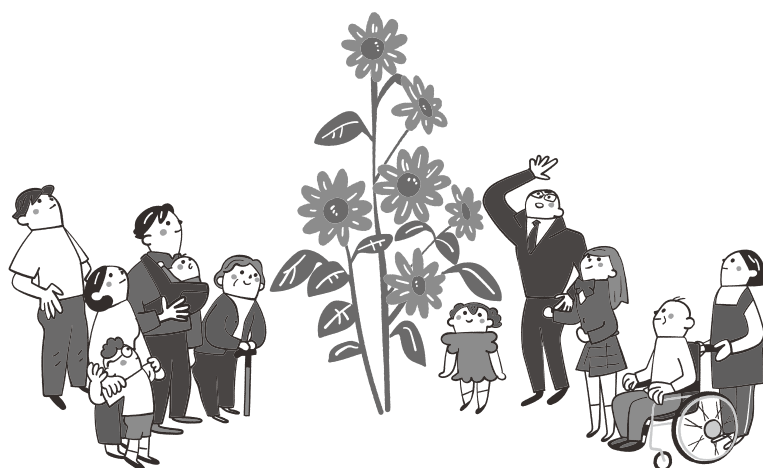
年月日	事 項	備 考
令和6年 7～8月	市役所関係課・市社協への 検証調査の実施	
8月30日	第1回策定委員会	・計画策定方針について (台風のため、書面決議)
10月28日～ 11月14日	地区別ワークショップの 実施	・市内6地区
令和7年 1月16日	第2回策定委員会	・計画素案について
1月24日～ 2月23日	パブリックコメントの 実施	・計画素案に対する市民への意見公募 (意見0件)
2月26日	第3回策定委員会	・計画案について

第2次あんしん福祉ビジョン
〔第2期五條市地域福祉計画・第3期五條市地域福祉活動計画〕

令和7年3月
五條市
五條市社会福祉協議会

〈五條市役所〉
〒637-8501 奈良県五條市岡口1丁目3番1号
（担当課）あんしん福祉部 社会福祉課
電話：0747-22-4001（代表） FAX：0747-24-2381

〈五條市社会福祉協議会〉
〒637-0043 奈良県五條市新町3丁目3-2
市立福祉センター内
電話：0747-24-4152 FAX：0747-24-4153



計画及び概要版に関する問い合わせ先

【 五條市役所 】

〒637-8501

奈良県五條市岡口1丁目3番1号

(担当課) あんしん福祉部 社会福祉課

電話：0747-22-4001 (代表)

FAX：0747-24-2381

【 五條市社会福祉協議会 】

〒637-0043

奈良県五條市新町3丁目3-2

市立福祉センター内

電話：0747-24-4152

FAX：0747-24-4153